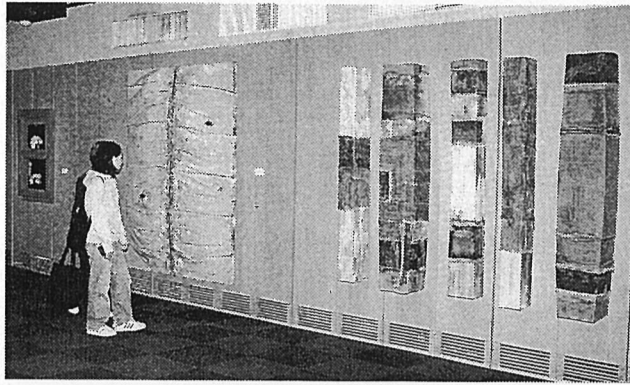


文化



10氏の意欲作が並ぶ「招待作家展—美術表現の現在」＝リウボウホール

成され、見ごたえのある展覧となつてゐる。四日まで。大浜氏をはじめとするベテラン勢が若手を挑発するよ

をすす中で、県立芸大大学院生の小椋氏が一人気を吐く。新垣作品の「銀」、永山作品の「黒」に挟まれた、真喜志作品の赤土の鮮やかさが印象的だ。一方、宮城氏は、これまでも用いてきた、アメリカの象徴としてのサインズを素材に展開しつつも、全体をピンクに染めて新たな相貌(そうぼう)を見せている。コピーしたA3判の紙を張り画面を構成した高良氏など、素材も表現の手法もさまざま。十人の作家の営為を通して、現代美術の多様性を伝えている。

美術話題

見ごたえある展覧  
リウボウで招待作家展

「1998琉球弧・美の渦流」事業の一環で、「招待作家展—美術表現の現在」がリウボウホール(パレット)もじ七階で開かれてゐる。新垣安雄、大浜用光、

小椋了、清水

梢太郎、高良

憲義、永津禎

三、永山信春、

南部芳宏、真

喜志勉、宮城

明一の十氏が

出展。現代美

術を手がける

県内の第一人

者を主体に構

成され、見ご

たえのある展

覧となつてゐ

る。四日まで。

大浜氏をは

じめとするベ

テラン勢が若

手を挑発する

よ